

令和 4 年度 社会資本総合整備計画 事後評価概要調書

計画とりまとめ課	建設緑政局道路河川整備部道路整備課	要素事業所管課	建設緑政局道路河川整備部道路整備課
----------	-------------------	---------	-------------------

1 計画の概要

計画の名称	川崎市市内における駅へのアクセス向上に資する道路整備	計画の期間	平成 29 年度～令和 3 年度
計画の目標	新設される鉄道駅の整備と連携して、駅へのアクセス道路を整備することで、道路ネットワークの強化及びアクセス性の向上を図る。		
計画の成果目標(定量的指標)	中原区宮内地内(宮内北側交差点)から新横浜駅までの所要時間を 1 割短縮する。 ※所要時間 当初: 100.00 分		
計画変更を行った場合、変更内容の概要	令和 2 年度から個別補助事業(無電柱化推進計画事業)、社会資本整備総合計画「川崎市市内における道路交通の円滑化を促進する道路整備」への移行に伴う要素事業の減。		

2 社会資本整備総合交付金を充てた要素事業の進捗状況(概要)

事業の区分	主な事業名	計画事業費		執行額(千円) (評価時)	進捗率 (%)	事業進捗状況の概要
		当初(千円)	評価時(千円)			
A (基幹事業)	宮内新横浜線 (宮内)、宮内新横浜線(子母口)	883,000	1,252,000	1,252,000	141.8%	令和 2 年度から個別補助事業(無電柱化推進計画事業、社資「円滑化」)へ移行
B (関連社会資本整備事業)	—					
C (効果促進事業)	—					
全体事業費(A+B+C)		883,000	1,252,000	1,252,000	141.8%	

3 計画に記載した評価指標の目標値の実現状況

評価指標の名称、 内容	中原区宮内地内（宮内北側交差点）から新横浜駅までの所要時間を1割短縮する。			
定義及び算定式	中原区宮内地内（宮内北側交差点）から新横浜駅までの所要時間短縮率 $(1 - \text{目標年次 (R3) の所要時間} / \text{基準年次 (H29) の所要時間}) \times 100\%$			
その指標を設定 した理由	本計画によるバイパス整備の事業効果は川崎市内（中原区宮内地内）から新横浜駅までの所要時間の短縮に現れるものと考え、さらに走行調査を実施することにより、これを定量的に表現することが可能であるため。			
当初現況値 (H29)	中間目標値	最終目標値 (R3)	実績値 (確定・見込)	目標達成状況
0%	—	10%	—	達成 or 未達成
目標達成状況に 対する所見	- 本計画期間内の事業内容は主に用地買収で、2要素事業の用地取得率は、<u>取得用地が多く交渉に時間を要している宮内工区</u>については37%から46%、子母口工区については63%から100%に上昇した。一方、期間内に工事が完成した箇所や先行整備を行った箇所は無いため、今回、定量的指標による評価を行うことは困難である。 - ただし、当初の所要時間は机上算定によるものであり、今後、事業完成時に実施する事後評価を的確に実施するには実測による基礎データが必要である。このため、川崎市内が未整備状態である現時点の実測データを取得することで完成時の事後評価を適正に実施することが可能となる。 - 今回、<u>事業完成時の評価のため参考として所要時間を計測した（79.53分）。</u>			
将来の見込み	- 子母口工区は今後、社会資本総合整備計画「川崎市内における道路交通の円滑化を促進する道路整備」へ移行後の令和3年度から工事に着手している。 - 宮内工区については、個別補助「無電柱化推進計画事業」への移行後、本計画期間と同様に用地交渉を着実に進めている。			

4 事業効果の発現状況（計画で設定した以外の数値的・定性的な評価指標によるもの）

評価指標の名称、 内容	—
定義及び算定式	—
指標とする理由 及び計画において 設定した評価 指標との関連性	—
評価指標の実績 値を含む効果の 発現状況	—

5 市民・事業者に対する意見募集・説明・調査の状況

意見募集・説明・調査の内容、手法、実施期間	・市民意見聴取 - Web アンケート調査による施策に関する評価・意見を収集 - 実施方法：インターネットリサーチ会社経由にて市内在住の登録者に Web アンケートを実施 - 実施期間：令和 4 年 8 月（1 週間程度） - 対象者：川崎市在住者 - 回答数：400 件 ・主な道路利用者への意見聴取 - 事業者アンケート調査による施策に関する評価・意見を収集 - 実施方法：アンケート表を配布し、FAX またはメールにて回収を行った - 実施期間：令和 4 年 8 月～9 月 - 対象者：神奈川県トラック協会川崎サービスセンター、神奈川県タクシー協会川崎支部、バス事業者 3 社 - 回答数：トラック協会 52 件、タクシー協会 3 件、バス事業者 13 件 計 68 件
意見募集・説明・調査の結果及びそれを踏まえた対応方針	・市民意見聴取においては、川崎市内の移動時間（または近隣都市への移動時間）が変化したかという質問に対して、「どちらとも言えない（変わらない）」という意見が大半を占めたが、「早くなった、やや早くなった」という意見が 12.3%みられた。 ・主な道路利用者への意見聴取においては、以前と比べて（概ね 5 年前）道路の整備や維持管理の効果を感じたことのある事業者が半数以上みられた。その内、「渋滞が緩和されたと思う」、「所要時間が短縮されたと思う」という意見が 36.5%みられた。

6 今後の方針等

総合的な所見	・本計画期間内の事業内容は用地取得であり、『所要時間短縮率』の向上に資する工事完成箇所は無い。よって今回、定量的指標による評価を行うことは困難である。 ・事業完成時に適正な評価のため参考として<u>所要時間を計測した（79.53 分）</u>。<u>用地取得は、取得用地が多く交渉に時間を要している</u>宮内工区で 37%から 46%、子母口工区では 63%から 100%と順調に進み、子母口工区は社資「円滑化」移行後の令和 3 年に工事に着手している。 ・このようなことから、本計画の事後評価としては、用地取得が着実に進展し工事着手の準備が整う等、道路ネットワークの強化及びアクセス性の向上に向けて一定の進捗があったと言える。
今後の方針 次期計画 あり・なし	・宮内工区について今後、さらに用地交渉に注力して事業を進展させる。 ・子母口工区については工事を滞りなく進め、事業効果を発現させる。